



住み慣れた地域で暮らし続けるために 成年後見制度

☎ 高齢福祉課
☎ 内線 1308

今後、認知症高齢者の増加などにより権利擁護支援が必要な高齢者が増加し、成年後見制度の利用が必要となる方はますます増加することが見込まれています。

市では、成年後見制度利用促進基本計画を策定し、司法や福祉の関係機関・家庭裁判所・行政が連携し、地域連携ネットワーク(成年後見制度利用促進連携ネットワーク)を構築します。

■成年後見制度とは？

認知症、知的障害、精神障害などにより判断能力が十分でない方や、将来の判断能力の低下に不安を抱く方のために、財産管理や医療・福祉サービスの手続き、契約などに関する法律行為をサポートする制度です。



■成年後見人の役割

成年後見人は、本人の意思を尊重し、本人に代わって、心身の状態や生活状況に配慮しながら、財産管理や必要な契約を結んだりして、本人を保護・支援します。

こんな時にご相談ください

- ▼一人暮らしで、認知症になった時の暮らしが心配
- ▼物忘れが多く、通帳をなくしたりする
- ▼子供に障害があり、自分たち両親が亡くなった後が心配
- ▼親や祖父母が、訪問販売や電話販売などで高額な商品を買ってしまう



■活動団体にインタビュー

NPO法人とりで市民後見の会は、社会貢献を目的に平成27年12月に設立され、24人の会員が、高齢者や障害者に対して、市民感覚を生かしきめ細かな活動をしています。現在は後見2件、保佐1件、補助1件の後見業務を担っています。今回は、会長の丸山忠信さんと、



内藤さん(左)と丸山会長(右)

会員の内藤義彦さんにお話を伺いました。

丸山会長「一人一人の対応が違うので、信頼関係が大事です。現在はだんだんと体制が整ってきて、会員の皆さんは生き生きと活動しています。今後は、担い手を増やしていきたいです」

内藤さん「設立当初は、人材も資金も知名度もなく困りましたが、市や弁護士などと連携して活動するようになってから会員が集まるようになりました」

■市の地域連携ネットワーク

市は、権利擁護の支援や成年後見制度の利用促進をさらに推進するために、市内全体を一つの区域とする成年後見制度の中核機関を設置します。中核機関の運営は、市(高齢福祉課・障害福祉課)が成年後見サポートセンター(市社会福祉協議会内)と協働して行います。

住み慣れた地域で権利擁護の支援が必要な方の意思決定を尊重して、生活ができる地域づくりを実現するために、中核機関を核として、本人の親族や司法・医療・福祉などの専門職団体、地域の関係機関などが連携するネットワークにより、本人や後見人などを支援する体制を構築します。

◆地域連携ネットワークの三つの役割

①発見・支援

相談機関同士の情報交換や連携など、支援が必要な方を発見し、制度の利用に結び付けていきます

②早期段階からの相談・対応体制の整備

早期段階からの相談に対して、個々の事情に応じて最も適切な権利擁護ができるよう、関係機関が連携する体制を編成し、本人の意思決定に基づいた申し立てと支援ができるようにします

③意思決定支援・身上保護を重視した制度の運用に資する支援体制の構築

支援が必要な方に、身近な親族や司法・医療・福祉・地域の関係者、後見人がチームとして関わる体制作りを進めます

◆取手市成年後見制度利用促進基本計画を策定

市では、平成30年12月に、県内初となる「成年後見制度利用促進審議会条例」を制定し、医療・福祉関係者、司法関係者などによる成年後見制度利用促進審議会を設置しました。成年後見制度利用促進審議会では令和2年度から3カ年計画となる「取手市成年後見制度利用促進基本計画」を策定しました。



審議会の様子

■成年後見制度のご相談はこちらへ

市成年後見サポートセンター(市社会福祉協議会内) ☎72-0603
高齢福祉課 ☎内線1308
障害福祉課 ☎内線1332

東京芸術大学 音楽部門で初 取手市長賞受賞者決定

☎ 文化芸術課 ☎ 内線 1291

市は、市制50周年を迎えるに当たり、東京芸術大学の音楽分野において取手市長賞を新設し、後藤駿也さん(声楽)と有吉佑仁郎さん(作曲)が選ばれました。

受賞された2人は、令和2年12月に開催予定のふれあいコンサートで演奏会を行う予定です。



後藤 駿也さん(声楽)

大学院音楽研究科オペラ専攻2年

東京芸術大学での7年間にわたる学生生活の最後にこのような名誉ある賞を頂き、大変うれしく思います。まだまだ未熟者ではありますが、これからも実直に芸と向き合い、自分の技術を日々磨いていきたいです。最後に、両親や先生方をはじめ、今日まで私を支えてくださいました全ての方々に、この場をお借りして、心から感謝を伝えたいです。



有吉 佑仁郎さん(作曲)

音楽学部作曲科4年

第1回取手市長賞(音楽分野)を頂戴し、大変光栄に思います。私は現在、ロックやエレキギターなどを取り入れた現代音楽の創作を試みており、オーケストラや室内楽における新たな可能性について模索しています。その過程で今回の賞を頂けたことは、今後の活動の上で大変励みになります。受賞に際し、取手市の皆さんには感謝しております。